浦添市医師会報

The Journal of the URASOE Medical Association

浦添市医師会
ロゴマーク決定!!

春夏号
Vol.85
2021（令和3年）

pickup

浦添市医師会オンライン講演会
新型コロナウイルスワクチン接種

一般社団法人 浦添市医師会

CONTENTS

01 **浦添市医師会ロゴマーク決定!!**

02 **第58回定時総会**

03 **二水会 2月**
浦添市医師会オンライン講演会
令和2年度うつ病に対する医療等の支援体制の強化事業
「コロナ危機のストレス・メンタルヘルス・自殺対策」

06 **令和2年度厚生労働省委託事業 在宅医療・施設ケア従事者「相談員研修会」報告**

08 **浦添市医療・介護連携支援センターうらっしー市民公開講座（ラジオ放送）報告**

10 **令和2年度浦添市在宅医療・介護連携支援センターうらっしー業務報告**

12 **新型コロナウイルスワクチン接種始まる**

会員寄稿
13 **『浦添36年 その結末』** 稲嶺皮膚科 院長　稲嶺 盛麿 先生

会員寄稿
14 **『子どもから大人まで、発達の不安を総合的に支援したい』** 平安病院　勝連 啓介 先生

17 **病院だより**

18 訃報

19 入会・退会・異動報告

20 理事会報告

22 事務局からのお知らせ

24 編集後記

浦添市医師会提供ラジオ番組
「ゆんたく健康トーク」出演予定

浦添市医師会ロゴマーク決定!!

昨年10月より公募しておりました浦添市医師会ロゴマークが決定しました。

応募総数70点の中から見事採用されたのは、市内牧港在住の又吉李美（りみ）さん（DTP オペレーター）の作品です。

作品イメージの示すとおり、燦燦と輝く浦添の太陽のもとで病診行（病院・診療所・行政）連携を図り、地域医療への貢献とこれからの発展を目指し、今後様々な場面で利活用を図って参ります。今回ご応募いただきました多くの皆様へ感謝申し上げます。

浦添市医師会

<作品イメージ>

浦添市の「う」と医師会の「い」をモチーフに、病院・診療所・行政の連携を 3 つの形で表現し、それぞれが支え合いひとつになることで「力強さ」をイメージし医師会の繁栄を表現しています。また、「てだこの都市・浦添」の太陽を描くことで地域に根差す地域医療の発展と貢献をシンボライズしています。

去る3月26日に表彰式を行いました。
写真中央が採用者の又吉李美さん。
おめでとうございます!!

第58回 定時総会

日時：令和3年3月22日（月）19：00
場所：浦添市医師会事務局

第５８回浦添市医師会定時総会が、3月２２日（月）１９時から浦添市医師会事務局にて開催された。

司会の藏下要理事より、会員数２６６名のうち２３９名の委任状を含む出席による本総会成立と、上程された全ての議案について決議が可能との報告があり、開会が宣言された。

続いて洲鎌盛一会長の挨拶の後、議長の選出が行われ、議場に諮ったところ執行部案の洲鎌盛一会長が選出された。

・議決権のある当法人会員総数：２６６名
・総会員の議決権の数：２６６個
・出席会員数（委任状によるものを含む）：２３９名
・この議決権の総数：２３９個

第58回浦添市医師会定時総会

1.開会宣言
2.会長挨拶
3.議長選出
4.議事
第1号議案　令和２年度（第２９期）補正予算案に関する件（満場一致で承認）
第2号議案　令和３年度（第３０期）事業計画案に関する件（満場一致で承認）
第3号議案　令和３年度（第３０期）収支予算案に関する件（満場一致で承認）
第4号議案　浦添市医師会役員（監事）の追加選任に関する件（満場一致で承認）
第5号議案　その他
以上をもって議長より本総会の議事を終了した旨が述べられ閉会した。

新役員（監事）のご紹介

徳山クリニック
知念 さおり先生

会員の皆さまにおかれましては COVID19 感染の終息が見えない中、お忙しくお過ごしのここと思います。

この度、令和年 3 年 3 月 22 日開催の定時総会にて監事に就任することになりました徳山クリニック　知念さおりと申します。令和 2 年改訂されました浦添市医師会の基本理念である「かかりつけ医機能の推進」「病診行の推進」「インフォームドコンセントの推進」「積極的な情報発信」を今一度確認し、会の運営をお手伝いできたらと思っております。よろしくお願い申し上げます。

（任期：令和4年6月の定時総会終活時まで）

二水会

浦添市医師会オンライン講演会

令和2年度うつ病に対する医療等の支援体制の強化事業

日　時：令和3年2月10日（水）19：00
場　所：オンライン配信（ZOOM）
日本医師会生涯教育講座1.0単位
カリキュラムコード：10チーム医療、70気分の障害（うつ）

座長：牧港中央病院理事長・浦添市医師会長　洲鎌 盛一 先生

演題
『コロナ危機のストレス・メンタルヘルス・自殺対策』

講師：山本クリニック/EAP産業ストレス研究所 院長
山本 和儀 先生

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の感染者が2020年2月1日に初めて沖縄県内で確認されてから1年余り経ったが、パンデミックの猛威が世界各地に甚大な影響を与え続けている。私ども浦添市医師会の行事もほとんどが取りやめになってしまった中で、このような時こそ必要だとの認識から、初めてとなるオンライン講演会を開催した。その講演の要旨を報告して、会員の先生方及び医療関係者の皆さまのお役に供したい。

新型コロナウイルス感染症のパンデミックはコロナ禍とも呼ばれているが、台風や地震等の自然災害ではない特殊災害（Chemical, Biological, Radiological, Nuclear, Explosives）の特徴を有し、報道の混乱、噂・デマ・陰謀論の流布、特定集団（感染者、人種・国籍・民族、検査の受検者、医療従事者、支援者）への攻撃（差別・中傷・責任転嫁）等の様々な社会現象を引き起こしている。SARS-Cov-2と名付けられた新型コロナウイルスの感染は、生物学的次元、心理的次元、社会的次元で感染し、多くの厄災をもたらすとともに（図1）、新しい生活様式（New normal）、with & post コロナの文化も作りだしている。

新型コロナウイルス感染症のもたらすストレス要因を図2、図3にまとめた。まず感染防止対策に伴う業務等の変更や業務量の増加・減少、不慣れな業務などがあるが、感染症治療・対策の第一線では、燃え尽き、困難な判断・倫理的葛藤・心的外傷が出現している。さらには感染や感染リスクに伴うスティグマ化によるストレスが大きい。そして社会的距離（Social distancing）や新しい生活様式が求められる中、在宅勤務・リモートワーク、ローテーションワーク、時差出勤によるストレス、自粛生活・生活習慣の変化に伴うストレスも私どもの心身・行動に大きな影響を及ぼしている。メンタルヘルスへの影響を図4にまとめた。パンデミック初期の頃は身体面の不定愁訴の出現と増悪・心気症化してかか

りつけ医や心療内科・精神科を受診する患者が増え、長引く中で、うつ病や自殺念慮を伴う患者の増加が懸念される。警察庁の調査（図5）によると、我が国の自殺者数は近年、減少の経過をたどり、新型コロナウイルス感染症流行初期は、災害初期のいわゆるハネムーン期の様相を呈し2020年6月までは低くなっていたものの、7月からは増加に転じた。詳細な分析によると、女性と小中高生の自殺が増加しており、それぞれの対策が求められる。自殺のPrevention、Intervention、Postventionのうち、自殺の危険が迫っている場合の対応（Intervention）　を図6に示した。TALKの原則は憶えやすく、有用と考える。うつ病患者を精神科へ紹介する際の目安として、不安・焦燥・希死念慮が著しい場合や自傷行為・自殺企図が見られる場合は、クリニックよりも精神科病院への紹介が望ましく、無用な混乱や遅延を生まなくてよいと思う。また精神科医療機関に紹介するに当たっては、患者と家族に診察結果を説明し、かかりつけの精神科医が必要であることを伝えていただきたいが、その際、患者や家族、医療関係者自身の偏見に留意しながら、精神科治療の有効性を説明していただきたい。

最後に、新型コロナウイルス感染症対策をストレス・メンタルヘルスの観点から、セルフケア（図7）、職場の対策本部や産業保健スタッフによる対策、管理職等によるケア（図8）としてまとめた。既に医療従事者へのワクチン接種も始まり、収束が期待されていたものの、沖縄県でも第4波に突入し、本稿執筆時の4月12日には「まん延防止等重点措置」が発令されている。皆様の新型コロナウイルス感染症に対する、多くの浦添市医師会会員の先生方、医療関係者の皆様の生物・心理・社会・倫理面での深いご理解とストレス・メンタルヘルス対策、自殺防止におけるゲートキーパーとしての役割が期待される。

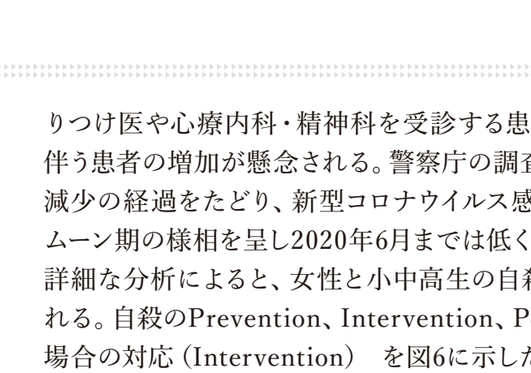

図1

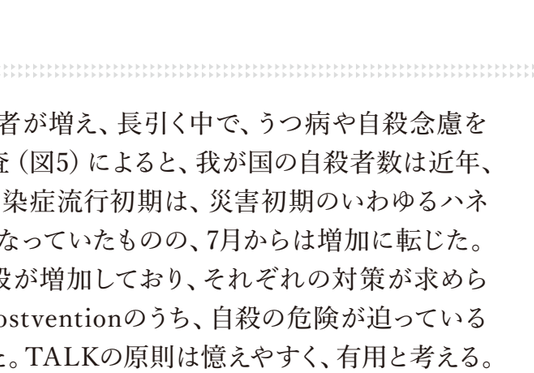

図2

図3

図4

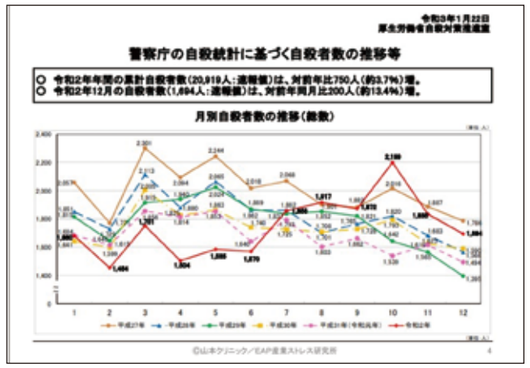

図5

図6

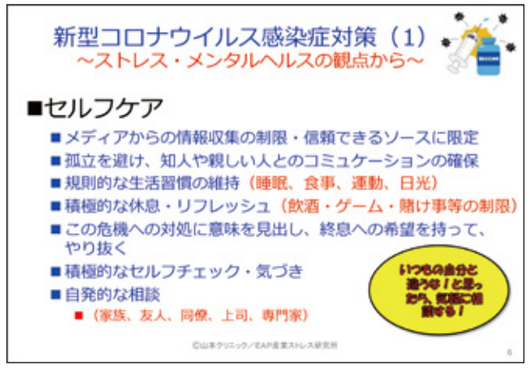

図7

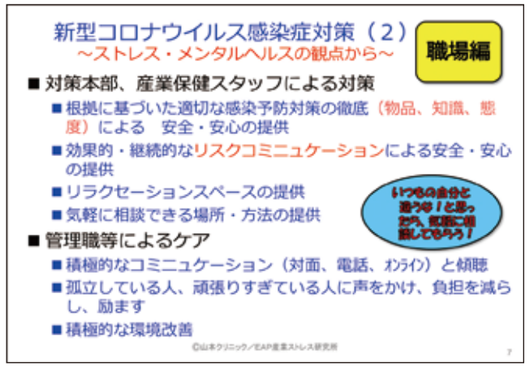

図8

座長の洲鎌盛一浦添市医師会長

講師の山本和儀先生

会場の様子

令和2年度 厚生労働省委託事業

人生の最終段階における医療体制整備事業
本人の意向を尊重した意思決定のための研修会

在宅医療・施設ケア従事者相談員研修会 報告

日時：令和3年2月28日（日）9：00
場所：オンライン開催

浦添市在宅医療・介護連携支援センターうらっしー事務局

去る2月28日（日）に厚生労働省主催の本人の意向を尊重した意思決定のための研修会 在宅医療・施設ケア従事者「相談員研修会」を開催いたしました。当日は、新型コロナウイルス感染症の状況を鑑み、オンラインで49名の市内の在宅医療・施設ケア従事者に参加して頂きました。

開催に至った経緯としまして、厚生労働省が事業を委託している慶應義塾大学・国立大学法人神戸大学では「人生の最終段階における医療・ケアの決定プロセスに関するガイドライン」に基づく「意思決定支援教育プログラム」を活用した相談研修会を実施、本人の意向を尊重した意思決定のための相談体制の整備を図っており、令和2年度は生活の場、暮らしの場でのガイドライン活用およびAdvance Care Planning(ACP)にフォーカスした「意思決定支援教育プログラム：在宅医療・ケア従事者版」を開発し、地域特性の異なる4つの地域の一つとして沖縄県が選ばれ、浦添市でトライアル研修を実施いたしました。その他の3つの地域は、鹿児島県、山梨県山梨市、千葉県稲毛市で開催しております。

研修会の開催にあたり、厚生労働省から委託を受けている慶應義塾大学の山岸暁美様の助言を受け、うらそえ介護福祉士会、浦添市、浦添総合病院の医療介護ネットワーク2025分科会Aの3機関にも市内の在宅医療・施設ケア従事者へ研修会の周知やグループ編成等をご協力頂きました。

講師は、宇都宮宏子氏（宇都宮宏子オフィス）、木澤義之氏（神戸大学医学部）、川口篤也氏（道南勤医協函館稜北病院）、佐々木淳氏（医療法人社団悠翔会）、下河原忠道氏（株式会社シルバーウッド）、古屋聡氏（山梨市立牧丘病院）、山岸暁美氏（慶應義塾大学医学部）の方々で1つの事例を通して4つのステップで講義やグループワーク・ロールプレイを行いました。各ステップは以下の通りです。

ステップ1：本人の意思決定する力を考える
ステップ2：本人の意思の確認ができる場合の進め方
ステップ3：本人の意思を推定する
ステップ4：本人にとって最善の方針について合意する

研修会に参加した受講者から「きちんと本人の気持ちに寄り添え、どのようにチームとして本人を支えていくのか、方向性をきちんと考える会議が持ててない。共通言語を周知していくことが大切だと感じた」「グループ内に多職種がおり、いろいろな視点を聴くことができた。人は、1人で考えるのではなく、家族や関係機関と連携を取りながらいろいろ話をしていくことで、患者や家族が納得した形で進めていくことが重要だということを再確認することができた。とても勉強になった研修会でした」「今後も継続して意見交換会や研修会等を行いたい」とのご意見がありました。本人の意向を尊重した意思決定等の際に本人や家族等の相談に乗り、必要に応じて関係者の調整を行う相談員のパイロット研修会となりました。

今回の研修会はオンライン研修ということもあり不手際が多かったかと思いますが、ご協力頂きました、慶應義塾大学の山岸暁美様をはじめ、うらそえ介護福祉士会、浦添市、浦添総合病院の医療介護ネットワーク2025分科会Aの3機関の協力もあり、なんとか無事に研修会を終えることができました。また、新型コロナウイルス感染症の蔓延で大変ご多忙の中、講師を務めて頂きました皆様、参加して頂きました皆様には、この場をお借りして心より感謝を申し上げます。

これからも地域の関係機関と連携しながら研修会を企画していきたいと思いますので、関係機関の皆様におかれましては、引き続きご協力を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

※研修会等のご案内やご報告等を随時
「浦添市在宅医療・介護連携支援センターうらっしーホームページ（http://www.urasshii.com/）」に掲載しております。

URASSHII うらっしー

浦添市在宅医療・介護連携支援センターうらっしー
市民公開講座 報告

日時：令和3年3月24日（水）12：00
場所：FM21（ラジオ放送）

浦添市在宅医療・介護連携支援センターうらっしー事務局

浦添市在宅医療・介護連携支援事業では、地域住民への普及啓発として、毎年参集型の市民公開講座を開催しておりましたが、今回は新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、浦添市在宅医療・介護連携支援センター運営委員会で協議を行い「新型コロナウイルス感染症」をテーマに、初のラジオ放送で市民公開講座を開催することになりました。

初めての試みであった為、FM21パーソナリティー城前ふみ氏や笠原大吾運営委員長と出演者や内容・時間構成について調整を行いました。

講師には、地域で実際に新型コロナウイルス感染症対策の指導等を行っている、浦添総合病院 感染防止対策室室長・感染管理者の原國政直氏をお招きし、新型コロナウイルス感染症について事例も交えながら講話して頂きました。出演者の浦添市いきいき高齢支援課予防支援係の潮平ひとみ氏、村山邦子氏に介護予防パンフレットのご紹介やコロナ過での地域の取り組みについてご報告して頂き、仁愛会在宅支援センターヘルパーステーションらくだの桃原淳氏には、コロナ拡大前の状況と現在の状況についてお話していただきました。その後、出演者全員でのディスカッションを行い、ラジオ放送中にはリスナーの方から講師の原國氏に質問が寄せられ、その場でご回答して頂きました。

初めての取り組みでしたが、トラブルもなくスムーズに進行することができました。また、リスナーさんから「2時間あっという間でした。とても勉強になりました」「改めて感染症対策に気をつけようと思います」「職場で聴いていた。とてもよかった」との声や反響を聴くことができました。

ご多忙の中、講師をお引き受け頂きました、浦添総合病院　感染防止対策室室長・感染管理者　原國　政直　氏をはじめ、出演やパーソナリティーをお引き受け下さりました皆様には、この場をお借りして心より感謝を申し上げます。

今回の経験を踏まえ、今後も地域住民へ在宅医療や介護に関する講演会の開催や在宅医療・介護連携の理解を促進できるような内容を企画していきたいと思います。

現在、市民公開講座（ラジオ放送）をうらっしーホームページにて期間限定でオンデマンド配信しております。
当日、ご視聴できなかった方や再度ご視聴されたい方は是非当センターホームページよりご視聴・ご覧ください。
うらっしーホームページhttp://www.urasshii.com/

＜パーソナリティー＞
笠原 大吾氏（沖縄県薬剤師会 理事・浦添市在宅医療・介護連携支援センター運営委員長）
城前 ふみ氏（FM21ゆんたく健康トークパーソナリティー）

＜講師＞
原國 政直氏（浦添総合病院 感染管理室長・感染管理者）

＜出演者＞
潮平 ひとみ氏（浦添市いきいき高齢支援課 予防支援係）
村山 邦子氏（浦添市いきいき高齢支援課 予防支援係）
桃原 淳氏（ヘルパーステーションらくだ・うらそえ介護福祉士会）

笠原 大吾氏

原國 政直氏

城前 ふみ氏

潮平 ひとみ氏　村山 邦子氏

桃原 淳氏

浦添市在宅医療・介護連携支援センターうらっしー業務報告

浦添市在宅医療・介護連携支援センターうらっしー事務局

「浦添市在宅医療・介護連携支援センターうらっしー」は、介護保険法における地域支援事業の包括的支援事業として浦添市からの委託により平成27年4月1日より浦添市医師会に設置され今年で7年目を迎えます。

令和2年度 浦添市在宅医療・介護連携推進事業の実施報告（概要）
（令和2年4月1日～令和3年3月31日）

（ア）地域の医療・介護の資源の把握

浦添市在宅医療・介護連携支援センターうらっしーホームページの管理・運営
（URL:http://www.urasshii.com/）
掲載内容の更新、新規事業所や休止事業所の把握、専門職への情報提供

（イ）在宅医療・介護連携の課題の抽出と対応策の検討

浦添市在医療・介護連携支援センター運営委員会の開催
一次連携（同職種連携）支援（医師）
高齢者施設等における新型コロナウイルス感染症発生時の相談窓口開設に向けての取り組み

（ウ）切れ目のない在宅医療と在宅介護の提供体制の構築推進

在宅医療や在宅主治医に関する依頼・相談（16件）
在宅主治医（訪問診療）の紹介（9件）
在宅医療参入機関（1件）
居住系施設による喀痰吸引研修実現に向けた取り組み

（エ）医療・介護関係者の情報共有の支援

高齢者福祉施設等における救急ガイドブック説明会開催（2回）
沖縄県における入退院支援連携に関する基本的な心得 説明会
医療介護ネットワーク2025　参画

（オ）在宅医療・介護連携に関する相談支援

相談件数（48件）
高齢者施設等における新型コロナウイルス感染症発生時の相談窓口の設置

（カ）医療・介護関係者の研修

多職種連携研修会の開催（1回）
各種研修会への参加（11回）

（キ）地域住民への普及啓発

市民公開講座（ラジオ放送）の開催（1回）
うらっしーだより発行（2回）
命しるべ　いのちの道標パンフレット　市内自治会へ配布
FM21「てぃだカフェ」への出演

（ク）在宅医療・介護連携に関する関係市区町村の連携

地区医師会コーディネーターミーティング
在宅医療・介護連携市町村支援事業コーディネーター等連絡会議

その他

うらそえ介護福祉士会との連携（随時）

浦添市医師会のホームページがリニューアルしました！

https://www.uraishi.or.jp/　浦添市医師会　検索

新型コロナウイルスワクチン接種始まる

3月中旬より医療従事者を優先とする新型コロナウイルスワクチン接種が開始されました。

今回のワクチン接種体制は、沖縄県が実施主体となる医療従事者向けワクチン接種と、市町村が実施主体となる住民向けワクチン接種の2本立てとなっており、医療従事者の接種後は住民向け接種へ移行し、高齢者、基礎疾患を有する者、高齢者施設等の従事者、60歳から64歳の者 etc. と、ワクチンの供給量を踏まえながら順次接種していくこととなっています。

当初使用される米国ファイザー社ワクチンは、超低温冷凍庫（ディープフリーザー）での保管や、保冷ボックスでの配送など、接種を請け負う医療施設におきましても慎重な取り扱いが必要なワクチンとなっており、新たなワクチン接種円滑化システム（V−SYS）の管理と併せて非常に手間の掛かる接種体制の構築が示されています。

浦添市におきましても、65歳以上の高齢者優先となる住民向け接種の体制づくりが進められ、新型インフルエンザワクチン接種以来の集団接種と、各医療施設での個別接種による体制づくりが計画されています。

集団接種の実施にあたっては、浦添市との連携・協働により、医師や看護師の医療従事者を当会から派遣協力を行うこととなりました。

3月25日（木）には、接種会場となる浦添市保健相談センターで集団接種シミュレーションを行い、各セクションでの従事内容の確認や、接種後のアナフィラキシー症状出現時等の急病人発生時に備えた現場での救命措置や消防本部との円滑な通報方法の模擬など、実際の市民の方々へ患者さん役を担ってもらい、ひとつひとつの動作を確認しながら本番を想定したシミュレーションが入念に行われました。

5月8日（土）より65歳以上の市内高齢者を優先とする住民向けワクチン集団接種が開始されており、当会所属会員施設の医療従事者の皆さまへは、ご理解とご協力を賜りながら、一日も早い新型コロナウイルス感染症の収束に向けて一致団結取り組んでいきたいと考えております。

（集団接種シミュレーション）

急変時対応の様子

ワクチン接種の様子

会員寄稿

「浦添36年　その結末」

稲嶺皮膚科 院長　稲嶺 盛麿

令和3年4月1日で閉院することにしました。長い間ありがとうございました。実は1年前の夏に職員と相談、80歳になる3月を店仕舞いの日としました。

本年1月4日、「閉院のお知らせ」を院内に掲示。廃業届を作成し年月日を記入するだけにして診療を続けていました。

4月1日。南部保健所に本人の確認と廃業届けをチェック。届け出済み印のあるコピーをもらう。隣の生活保護課へ、しかし届け出用紙は浦添の方に出せと。患者は那覇市、宜野湾市からも来るのにツーカーではない。

次に厚生局沖縄分室に行く。届け出済み印のあるコピーを提示、OKと思ったら「保健医療機関の指定通知書」の返還が必要とのこと、翌日郵送することに。一日では終わりませんでした。

書籍類はずいぶん前から処分していた。使える車椅子、長椅子や机、棚などは持って行ってもらう。カルテ、伝票や帳簿類を年代別に箱詰めする作業は前もって進めていたが、3月のレセ請求と併行するため大変でした。

その間に大家、解体業者と話し合う。4月5日、書棚、ロッカー他大型収納用品、ブラックライトやベッドを含め、不用品を全て運んでもらう。依頼していた環境ソリューションの手際良い回収作業にみな驚く。ダメなリース会社もあったが。

4月7日のレセプト提出で事務が終了。4月12日。水道工事、空調、照明器具や配線を除去し、間仕切り、カウンターなどの解体作業が進む。アッという間に院内は廃材の山に。看板も取る。トイレの除去、床の削りの問題が残るが七割方終了の段階に。

はじめから絶対不可欠だが連絡事項の多さが疲れた。カルテの収納も大変だ。

4月15日、一段階を終った廃業風景でした。第2段階は?

明日は明日の風が吹く。待つのみ。

皆様の益々の活躍を祈ります。

会員寄稿

「子どもから大人まで、発達の不安を総合的に支援したい」
ピアラルうらそえが開所しました

ピアラルうらそえ施設管理責任者　医療法人へいあん平安病院　小児科医　勝連 啓介

４月１日、浦添市障がい福祉関連複合施設「ピアラルうらそえ」が牧港４丁目に開所しました。防衛省補助（施設周辺整備助成事業補助金）を活用した公設民営の施設です。私が所属する医療法人へいあんは、浦添市で 50 年以上前から精神保健医療対策に取り組んできました。近年は、発達障がいの診療と地域医療を推進しています。また、社会福祉法人浦添市社会福祉協議会は、「誰もが安心して暮らせるまちづくり」を主導してきた歴史があります。「ピアラルうらそえ」は、その両法人が機能を集約し共同企業体として指定管理者となり、運営にあたります。

施設運営の理念は次の通りです。「子ども・利用者ひとりひとりの喜びをなにより大切にし、幼少期から成人期までの一貫性のある継続支援および地域の相談支援の強化に努めます」

市民の皆様に親しまれ、参加しやすい開かれた施設となるよう尽力してまいります。浦添市医師会の先生方、皆様におかれましては、今後ともお力添えの程よろしくお願いいたします。（図1にピアラルうらそえの案内を示します）

図1

医療法人へいあん理事長
平安 明先生ご挨拶

ピアラルうらそえ
開所式テープカット

ピアラルうらそえ前景

てだ子が質問！「ピアラルうらそえ」について

「ピアラル」ってどんな意味？

ピア（仲間）、ピュア（自然な）、「支えル」をかけて、障がいに差別のない仲間が自然に集まり、みんなで支え、支えられあう場という意味を込めています。

「ピアラルうらそえ」って何をするところ？

「子育て相談から始まる子どもの発達支援」をていねいに行うことを目的としています。

発達支援として、発達が気になるなど子育てに不安を感じている親子が通う「そだちのひろば　うぐいす」と、障がいがある子どもの療育と親支援を専門的に行う「児童発達支援センターたんぽぽ」があります。（図 2 にうぐいすとたんぽぽの機能図を示します）

また、子どもも大人も相談でき、地域の障がい支援体制を作るための「基幹相談支援センターてだこの森」があります。（図 3 にてだこの森の機能図を示します）

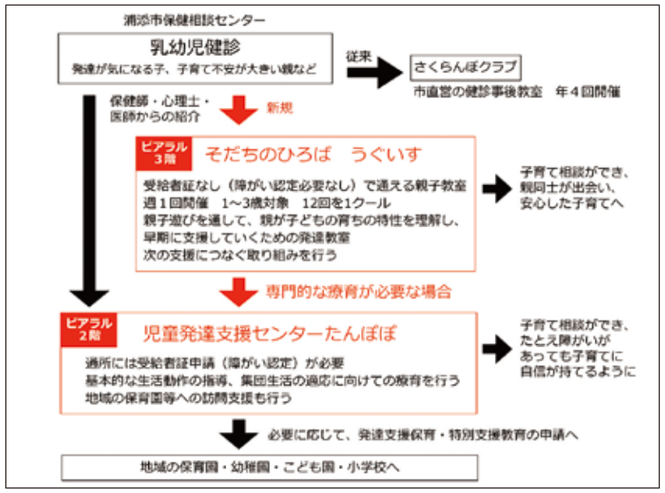

図2

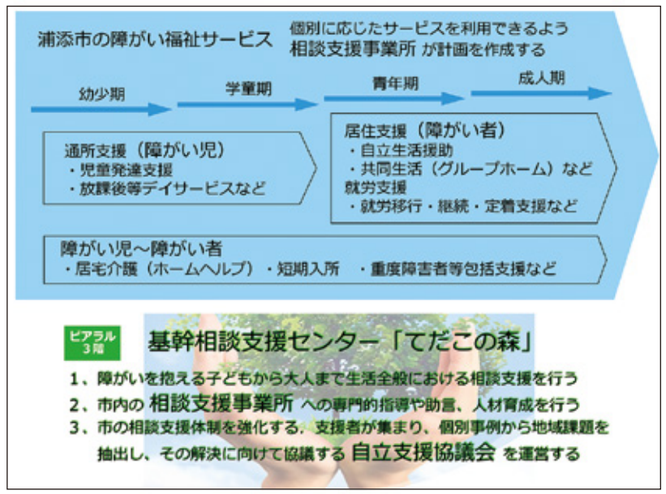

図3

「発達相談クリニックそえ〜る」を6月1日より開院いたします

6月1日より「発達相談クリニックそえ〜る」を開院させていただく運びとなりました。標榜科は小児科・児童精神科ですが、発達相談（療育相談）に特化したクリニックです。ピアラルうらそえ4階部分を、医療法人へいあんが専用利用する形態での医療法人へいあん自主事業による運営となります。

○予約:6月1日より電話による予約を始めます。
詳しくは、5月17日（月）以降のピアラルうらそえホームページにご案内する予定です。

○対象年齢:主に未就学児の発達支援を目的とし、原則として小学校6年生までを対象とします。

※中学生以上の場合、精査や投薬が必要となる事例が増えるため、精神科・心療内科クリニックをお勧めします。なお、家族支援を要する場合、ピアラルうらそえには基幹相談支援センターがありますので、そこで相談をお受けすることができます。

○対象事例:
①乳幼児健診からの紹介:医師・保健師・心理士から受診を勧められた
②保育園・幼稚園・こども園・小学校から受診を勧められた
③子どもの「言葉の遅れ」「落ち着きがない」「やりとりが一方的」などの発達に関する症状がある
④養育者が、子育てに不安が大きい
⑤クリニックからの紹介、などを想定しています

○スタッフ:医師1人、看護師1人、受付・医事係1人、公認心理師（常勤1人、非常勤5人）

○診療時間

	月	火	水	木	金
午前（9:30〜12:30）	○	○	○	○	○
午後（14:00〜17:30）	○	○	○	−	○

○受診の流れ:図4に発達相談クリニックそえ〜るにおける相談支援の流れ図を示します

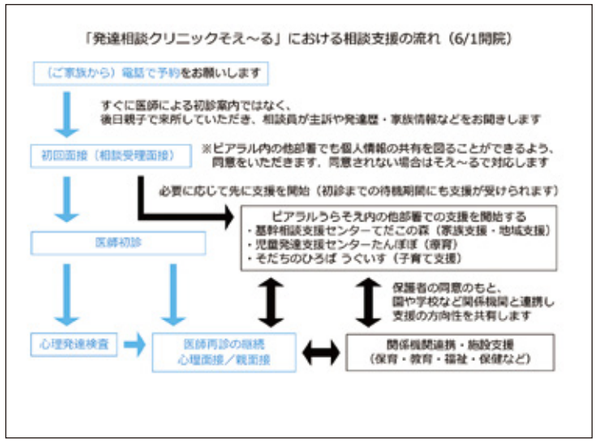

図4

左:平安良次診療支援科長
右:公認心理師、上原仁美看護師

勝連啓介先生

病院だより

改めまして、医療法人博愛会 −まちなと内科在宅クリニック−です

「こんにちは、まちなとでーす、おじゃましまーす」

訪問診療で患者さんのところに訪問した際の私たちの第一声です。

当クリニックは平成27年5月に「爽やかに生きよう」をモットーに開院しました。地域の皆さまに信頼されるクリニックを目指し、午前は外来診療（内科・老年内科・呼吸器内科・循環器内科）、午後は訪問診療を行なっています。令和2年7月には医療法人博愛会牧港中央病院のグループになり、より一層地域貢献できるよう取り組んでいます。

当クリニックは医師、看護師、事務員の3名1チームで多職種連携協働し訪問診療を進めています。牧港中央病院のメディカルスタッフ（臨床検査技師、臨床工学士、栄養士など）と連携し、訪問先でのエコー検査やレントゲン撮影、ペースメーカーチェック、ご家族や施設からの栄養相談に対応しています。

また、入院が必要な状態の時は牧港中央病院から看護師と事務職員がご自宅や施設へお迎えに行き、入院のサポートも行っています。

通常、診療は医師のみで行うことも可能ではありますが、個々の細かなニーズを把握し、在宅で安心して過ごすことができるよう充実した支援につなげるためには、やはり多職種の力が不可欠です。多職種が関わることで、患者さんにとって一番何が大切なのかを多角的に考え、常に話し合いを重ねていく姿勢が最も重要です。昨今、医療の現場でしきりに取り上げられ、求められているACP（アドバンス・ケア・プランニング以下ACPとする）は、まさにそのものです。ACPとは今後の治療・療養について患者・家族と医療従事者があらかじめ話し合う自発的なプロセスと定義されています。ACPで話し合う内容は患者さん本人の気がかりや意向、価値観や目標、病状や予後の理解、治療や療養に関する意向や選好、その提供体制などがあります。これらの内容を話し合うためには、まず患者さん自身やその家族を含め、患者さんを取り巻く多職種との関係性が良好でなければなりません。訪問先で、話しやすい環境つくりは挨拶から始まり、「目配り」「気配り」「心配り」という3つの配慮があってこそ、得られる重要な情報があります。その重要な情報を診療に活かし、更に有効な支援につなぐため、多職種と話し合い、患者さんの望みを考え支援し続けていきます。

外来から在宅診療までみなさまに選んで頂けるクリニックを目指し、スタッフ一同優しく柔軟に対応させて頂きますので、今後ともどうぞ宜しくお願い致します。

−まちなと内科在宅クリニック−
外来診療に関するお問い合わせ　098-875-8888
訪問診療に関するお問い合わせ新規ご相談窓口　098-876-7420
牧港中央病院地域連携室

まちなと内科在宅クリニック　院　長　大濱　篤
看護師　玉城 かおり
大濱 ひとみ

訃　報

生前のご功績を偲び、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

令和3年1月5日御逝去

故　比嘉 弘文 先生（享年 80 歳）

（比嘉眼科 会長）

浦添市医師会理事
（1 期 2 年：平成 4 年 4 月～平成 6 年 3 月）

令和 3 年 5 月 14 日御逝去

故　玉城 英征 先生（享年 81 歳）

（元経塚クリニック 院長）

弔事に係るご連絡について（お願い）

浦添市医師会では浦添市医師会運営規定に基づき、会員並びに会員の一親等以内の親族の方が亡くなられた際は、供花、香典と共に新聞に弔慰広告を掲載し、弔意を表すこととなっております。

供花等を供する際の必要事項を記入する様式を備えておりますので、そのようなときは浦添市医師会へお電話にてご連絡下さい。

浦添市医師会　TEL：098-874-2344　FAX：098-874-2362
沖縄県医師会　TEL：098-888-0087　FAX：098-888-0089

日曜・祝祭日　連絡先：090-6861-1855

入会・退会・異動報告（令和3年1月理事会～令和3年4月理事会）

異　動

氏　名	医療機関名	異動事由	異動年月日
比　嘉　　明	比嘉眼科	会員区分変更	R3.1.5
徳　田　安　春	群星沖縄研修センター	現住所変更	R3.2.5
宮　里　恵　子	浦添総合病院	現住所変更	R3.2.15
稲　嶺　盛　麿	稲嶺皮膚科	会員区分変更	R3.4.1
嶺　井　美奈子	介護医療院にしばる	会員区分変更、管理者交代	R3.4.1
富　村　　智	介護医療院にしばる	会員区分変更、管理者交代	R3.4.1
石　川　智　司	嶺井第一病院	会員区分変更、管理者交代	R3.4.1
嶺　井　　聡	嶺井第一病院	会員区分変更、管理者交代	R3.4.1

退　会

氏　名	医療機関名	退会事由	退会年月日
比　嘉　弘　文	比嘉眼科	ご逝去	R3.1.5
豊　里　一　郎	平安病院	廃業・退職	R3.3.31
林　　宗　幸	ロクト整形外科クリニック	その他	R3.3.31
玉　城　英　征	自宅会員	ご逝去	R3.5.14

理事会報告（令和3年1月～令和3年4月）

令和3年1月18日（月）19：30

1. 会議出席報告
   ・第１回新型コロナウイルスワクチン接種に関する意見交換会
   ・第１回新型コロナウイルスワクチン医療従事者等接種体制に係る連絡会議
2. 研修会案内
   ・浦添市医師会オンライン講演会について
   ・在宅医療・施設ケア従事者「相談員研修会」について
3. 浦添市一定の高齢者（デイサービス利用者）へのPCR検査事業について
4. 浦添市医師会ゴルフコンペの中止について
5. プロ野球オープン戦への医師・看護師の派遣について

令和3年2月15日（月）19：30

1. 入会・退会・異動報告
2. 会議・研修会等の参加・出席報告
   ・令和２年度第２回会費検討委員会について
   ・浦添市医師会オンライン講演会について
3. 研修会案内
   ・在宅医療・施設ケア従事者「相談員研修会」について
4. 新型コロナウイルスワクチン接種について
5. 地域医療機関から浦添総合病院へのPCR検査依頼について
6. 監事追加について
7. 理事会の開始時間について
8. 事務連絡
   ・プロ野球オープン戦への医師・看護師の派遣について
   ・浦添市医師会ロゴマーク募集について
   ・「おきなわ津梁ネットワーク浦添モデル」展開に向けての浦添市長表敬訪問について

令和3年3月15日（月）19：00

1. 会議・研修会等の参加・実施報告
   ・第２回沖縄県医師会産業医組織化に向けた関係者会議
   ・在宅医療・施設ケア従事者「相談員研修会」報告
2. 「おきなわ津梁ネットワーク浦添モデル」展開に向けての浦添市長表敬報告
3. 新型コロナウイルスワクチン接種について
4. 第５８回浦添市医師会定時総会について
5. 浦添市医師会ロゴマークの選定について
6. 承認事項（後援依頼）
   ・エンドオブライフ・ケア援助者養成基礎講座in沖縄（多職種研修会）
7. 事務連絡
   ・浦添市医師会ホームページリニューアルについて

令和3年4月19日（月）19：00

1. 入会・退会・異動報告
2. 会議・研修会等の参加・実施報告
   ・令和２年度第２回医療機能分化検討会議
3. 新型コロナウイルスワクチン接種情報関係
4. 去る定時総会での会員の先生方からいただいたご要望について
5. 令和３年度浦添市医師会学術奨励賞発表会・表彰式について
6. 指定運動療法「がんじゅう倶楽部」運動療法処方箋の記載について
7. 今年度前半（９月まで）の各種講演会や会員親睦行事の開催について
   ・学術講演会（奇数月）
   ・二水会（偶数月）浦添市との意見交換会、ボウリング大会
   ・ゴルフコンペ（９月２３日予定）
8. 浦添総合病院救急受け入れ制限について
9. 新型コロナウイルスワクチン市民向け接種に向けての説明会について
10. 承認事項
    ・令和３年度浦添市がん検診委託料について
    ・沖縄県母子推進員連絡協議会会費について
    ・浦添市ボランティア連絡協議会会費について
    ・浦添市社会福祉協議会特別会費について

事務局からのお知らせ

浦添市医師会ホームページ掲載情報について

浦添市医師会ホームページでは会員医療機関の診療時間などを掲載し、広く情報公開をしています。診療時間、受付時間、診療科目の変更・追加などがある時は、浦添市医師会事務局へご一報下さいますようお願いいたします。

浦添市医師会事務局
TEL：098-874-2344　FAX：098-874-2362
E-mail:info@uraishi.or.jp　http://www.uraishi.or.jp

浦添市在宅医療・介護連携支援センターうらっしー専用電話番号のご案内

浦添市在宅医療・介護連携支援センターうらっしーの専用電話番号を設置しています。在宅医療・介護等についてのご相談はこちらの番号へおかけ下さい。FAXでのご相談の場合は、これまで通り浦添市医師会と共有です。

うらっしー専用電話番号　TEL：098-894-2698

浦添市医師会 事務局員異動のお知らせと新職員のご紹介

4月1日より本事務局の体制が変更となりました。今後とも変わらぬご指導、ご鞭撻を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

事務局長　平　良　睦　男
事務局員　武　富　陽　子　（経理、がん検診、特定保健、その他担当）
棚　原　成　秋　（予防接種、認可外保育園内科健診、災害関係、その他担当）
山　里　貴　子　（文書管理、学校健診、学術、広報、その他担当）
豊見本　杏　里　（予防接種、認可外保育園内科健診、災害関係、その他担当）

浦添市在宅医療・介護連携支援センターうらっしー
伊　波　由衣子　（医療介護連携コーディネーター）
島　田　真　子　（医療介護連携コーディネーター）

浦添市医師会事務局員
とみもと　あんり
豊見本 杏里

浦添市在宅医療・介護連携支援センターうらっしー
コーディネーター
しまだ　ちかこ
島田 真子

浦添市医師会報

表紙写真・原稿募集
病院だより・診療所だよりのお知らせ

本会では、会報を年３回発行しており、よりおもしろく、よりためになり、親しみのある紙面作りをめざしています。

会報の表紙を飾る写真の投稿、随筆、書評、趣味の話…など、先生方の多岐にわたるご寄稿をお待ちしております。

また、昨今のコロナ禍で各種講演会等が延期となり、会員間の情報共有が取りづらくなっております。そこで、浦添市医師会報誌面を活用し、会員間、病院―診療所間の交流や各施設の情報提供などを目的として「病院だより」「診療所だより」のコーナーを設けております。

原稿は随時募集しておりますので、メールまたは郵送にて浦添市医師会あてお送りくださいますようお願いいたします。

また、メディカルスタッフの皆様にも、本会会報へのご投稿について、どうぞお声かけ下さいますようお願いいたします。

寄稿仕様

①表紙の写真
写真タイトル・表紙のことば（簡単な説明）・投稿者の医療機関名・氏名・連絡先を明記のうえ、浦添市医師会あてメールまたは郵送にてお送り下さい。

②随筆・書評・趣味の話・その他
タイトル・投稿者の医療機関名・氏名・連絡先を明記のうえ、日常診療のエピソード、紀行文、書評、趣味などお気軽にご寄稿下さい。

※メールでお送り下さる場合は、件名に「浦添市医師会報寄稿」とご入力下さい。

★会報に関する問い合わせ先★

浦添市医師会事務局　〒901−2132 浦添市伊祖3−3−1 アルマーレ101
TEL：098−874−2344　FAX：098−874−2362
Email：info@uraishi.or.jp

編集後記

新型コロナウイルスの感染拡大はなかなか衰えず、変異株が広がりをみせる中、我々の医療現場はその対策を緩めることできない状況が続いています。浦添市医師会が県内初のドライブスルー方式での「新型コロナウイルス検体採取センター」を立ち上げたのが昨年の5月1日でした。あれから約1年、浦添市医師会の新型コロナウイルスに対する活動の中心はPCR検査から市民へのワクチン接種へと移行しています。

この1年間は定例で行ってきた行事のほとんどが中止や縮小しての開催を余儀なくされました。この間、浦添市医師会はZOOMのシステムを導入して理事会や学術講演会はこれを併用して行い、また浦添市在宅医療・介護連携支援センターの市民公開講座はFMラジオ放送を通して行うなどウィズコロナの時代に対応した取り組みを始めています。

そのような中にあって嬉しい話題は、浦添市医師会のロゴマークが決定したことではないでしょうか。てだこの街、浦添市の医師会らしいデザインとなっています。会員の先生方や市民の皆さんに親しんでもらえたらと思います。

会員寄稿では、この度閉院されました稲嶺皮膚科の稲嶺先生、そして浦添市障がい福祉関連複合施設「ピアラルうらそえ」の開所について勝連先生に寄稿していただきました。また今回の病院だよりは、医療法人博愛会 まちなと内科在宅クリニックの大濱先生が執筆されています。会員の動向についてご一読いただきたいと思います。

ご好評をいただいております、FM21「ゆんたく健康トーク」は会員の皆さんのご協力により放送継続中です。毎週月曜日の午後8時からの放送に加え、日曜日の朝6時からの再放送が加わったことにより、夜の苦手なご高齢の視聴者もよく聞かれるようになったとのことです。人々が“ヤーグマイ”することの多くなった今こそFMラジオからの情報発信はより重要になっています。今後ともご協力の程よろしくお願いいたします。

（会員親睦・広報担当理事　藏下　要）

浦添市医師会報 2021年（令和3年）春夏号　通算第85号

発行：一般社団法人浦添市医師会　発行人：洲鎌 盛一

〒901-2132 沖縄県浦添市伊祖3-3-1 101
TEL：098-874-2344　FAX：098-874-2362
E-mail info@uraishi.or.jp　ホームページ http://www.uraishi.or.jp

制作/株式会社スウィッチ

2021年FM21「ゆんたく健康トーク」出演予定表

（2021年7月～12月）

7月	
5日	たつや整形外科
12日	牧港クリニック
19日	なしろハルンクリニック
26日	南斗クリニック

8月	
2日	介護老人保健施設アルカディア
9日	牧港泌尿器科
16日	アイビーホームケアクリニック
23日	浦添市社会福祉協議会
30日	徳山クリニック

9月	
6日	牧港眼科
13日	げんか耳鼻咽喉科
20日	沖縄療育園
27日	浦添市医師会事務局

10月	
4日	浦添市（こども家庭課）
11日	宮良クリニック
18日	マンマ家クリニック
25日	同仁病院

11月	
1日	比嘉眼科
8日	キンザー前クリニック
15日	浦添市地域包括支援センターライフサポート
22日	バリアフリーオリンピック実行委員会
29日	浦添総合病院

12月	
6日	みやざと内科クリニック
13日	介護老人保健施設エメロードてだこ苑
20日	佐久田脳神経外科・外科
27日	年末特別放送

ラジオ番組

浦添市医師会提供

「ゆんたく健康トーク」毎週月曜日 午後8時～9時

FM21（76.8Mhz）で好評放送中！

FM21「ゆんたく健康トーク」再放送のお知らせ

毎週月曜日の午後8時から放送しております
「ゆんたく健康トーク」は、月曜日に放送した回を
毎週日曜日の朝6時から再放送しております。
聞き逃した回やもう1度聴きたい回をお聴きいただけます♪